海洋の仕組みと変動・変化を理解する
― Scientific Committee on Oceanic Research (SCOR; 海洋研究科学委員会)の活動と日本の貢献 ―

升本順夫
(東京大学大学院理学系研究科)

SCOR（海洋研究科学委員会）とは？

- 国際学術連合会議（ICSU; 当時）が1957年に設置した海洋研究に関する初めてかつ唯一の学際的学術組織

1957-58年には、国際地球物理年（IGY）が実施された。このIGYを契機として、海洋科学の諸問題の解決には真に学際的なアプローチが必要であるという認識が世界の海洋研究者によって共有されることになる。SCORは、その実現のために設置された。この設立段階から、日本人研究者が深く関与していた。

目的：海洋に関する分野横断的な問題解決のための研究と国際協力の振興

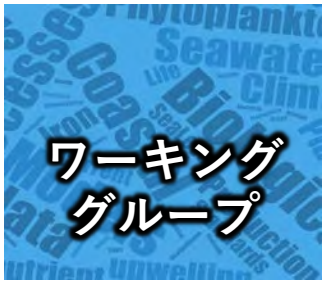
SCORは基礎科学だけではなく、水産や工学系の課題まで海洋に関わる幅広い分野をカバーし、分野間の協力を推進

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」の考え方を先取り

「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」

SCOR の活動



焦点を絞った課題について深く検討し、その成果を発信

これまでに162のWG活動をサポート

日本人研究者も多数参加

研究・観測・モデリング等の下支えとなる活動のサポート

（国際規格や技術開発など）

国内予算の確保が難しいこのような活動をサポートすることで、海洋科学研究全体を活性化

大規模な国際研究プロジェクトの立案・調整のサポート

これまでに様々な大型プロジェクトに関与

これらのプロジェクトの下で多くの日本人研究者が育ち、活躍

SCOR 設立当初から、海洋科学分野での能力構築に注力

特に、発展途上国の研究者や若手研究者などが SCOR の活動に参加すること、研究を活発に行っている研究者らとのネットワークを構築することを重視

SCOR：日本の貢献、日本への影響

- 日本の貢献

  - ✓ SCOR 年会開催：東京（1970）、札幌（2002）、富山（2019）
  - ✓ SCOR 副議長：浅井冨雄（1988–1994）、谷口旭（2002–2006）、田口哲（2010–2014）、張勁（2018–現在）
  - ✓ SCOR WG（共同）議長：三宅泰雄（WG1）、鳥羽良明（WG101）、青山道雄（WG147）、野村大樹（WG152）

  ➢ SCOR などの国際協力を通じて、日本の学界は海洋科学研究を世界的に牽引する立場になっています

- 日本への影響

  - ✓ SCORが立案や運営に参画した国際共同研究やワーキンググループに日本人研究者が多数参加し、日本の海洋科学研究の振興と普及を促進
  - ✓ 多様な学協会の連携促進 （関連17学協会が連携した「深海アルゴフロートの全球展開による気候・生態系変動予測の高精度化」が学術会議マスタープラン2020の重点課題に採択）
  - ✓ 海洋基本法の制定・海洋基本計画の策定・総合海洋政策本部の設置へ貢献

私たちと SCOR

SCORの活動を通じて、海洋科学の基礎研究や学際的研究は、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」や「持続可能な開発のための海洋科学の10年」に貢献し、さらには私たちの安定した社会活動の実現に貢献しています。